

M O N T H L Y

vol.89

U P

印刷前にRIP処理



役目は印刷用言語への翻訳。 DTPの通訳、それがRIPです。

各種アプリケーションで作成されたデジタルデータ。

もちろん、そのままでは印刷できません。印刷に適した形に変換する必要があります。
この変換処理を行うこと、それがRIPの役割です。

現在、印刷物のデータはMacintoshを使って作成されることがほとんどです。この作成されたデータから、カンパのプリント、印刷用の版の出力が行われます。しかし単にデータをプリンタやイメージセッタに送っただけでは、出力はできません。なぜなら、MacintoshなどのPCで作成されたアプリケーションのデータ（ベクターデータ）を、出力機器が理解できないからです。そこで、出力機器が読み取れるデータ（ラスターデータ）に、変換処理を行う必要があります。まるでデータの翻訳のような、この作業を行うのがRIP（Raster Image Processor）です。

ベクターデータは、曲線がなめらかに表現されているのに対し、ラスターデータは、ドットの集合なので拡大すると輪郭にジャギーを確認することができます。その反面、写真画像の微細な色表現には適しています。なおベクターデータから、出力機器の解像度に応じたラスターデータの生成を行うことをラスターライズと言います。

RIPは、大別するとハードウェアRIPとソフトウェアRIPに分かれます。

ハードウェアRIPとは、専用のハードウェアでRIP処理を行う仕組みです。専用のハードウェアは、RIP処理を行うソフトとメモリ、各種フォントなどから構成され、出力機器に直接搭載されることが一般的。RIP処理を専門とする機器なので、高

速処理が期待できます。一方、ソフトウェアRIPとは、専用のハードウェアを利用せず、WindowsやMacintoshといったパソコンのCPUを利用してRIP処理を行うものです。こちらはPCの能力に依存するため、演算能力の高いPCにインストールすることで、処理速度を高めることが可能です。またソフトウェアのバージョンアップが容易という利点もあります。

RIPが登場した頃は、データの変換に膨大な負荷がかかるため、処理の高速なハードウェアRIPが多く利用されていました。しかし、近年の急速なコンピュータの発展により、専用ハードウェアは短期間のうちに陳腐化する傾向にあります。数年ごとに高額な専用機器を導入するのは、コストの面で非現実的。現在ではPCの処理能力が飛躍的に向上したこともあり、ソフトウェアRIPが主流となっています。

今日、RIPはデータのラスターライズだけでなく、RGBからCMYKへの変換、入稿データのチェック、見当ズレを最小限に抑えるためのトラッピング、さらにネットワークによる進捗状況の管理など、多機能化が進んでいます。このように、多様な役割を担うRIPはワークフローRIPと呼ばれ、トレンドの技術として注目を集めています。

さらなる品質の向上や効率化をめざして、印刷業界もまた、日々発展を続けています。





SEZAX

<http://www.sezax.co.jp>

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 本社・工場 | 〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7 | TEL 03 (3758) 2511(代) |
| <input type="checkbox"/> 渋谷コア | 〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F | TEL 03 (3400) 9211(代) |
| | | 5F TEL 03 (3400) 9401(代) |
| <input type="checkbox"/> 下丸子工場 | 〒146-0092 大田区下丸子2-20-4 | TEL 03 (3758) 2516(代) |

株式会社セザックスクリエイティヴ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代)

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代)



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は森林認証紙を使用しています。